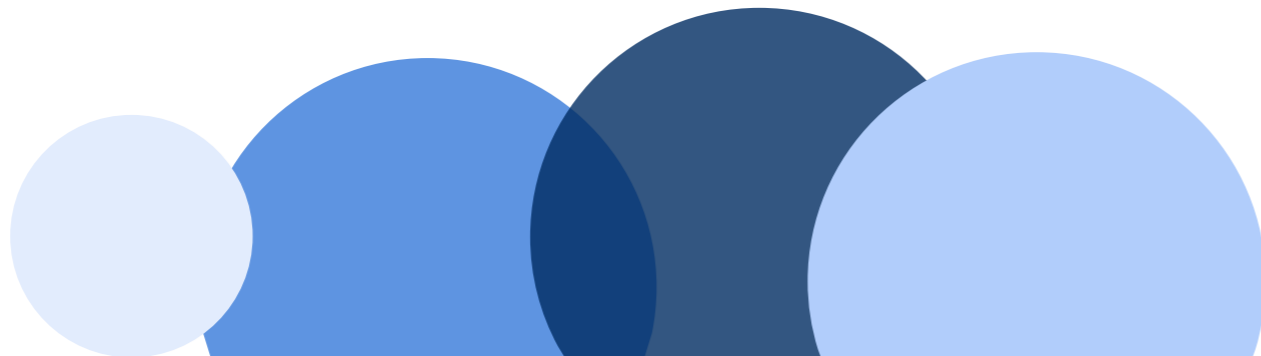


### 3. 政策策定と評価

# 確認テスト

---

公開: 2025年4月  
更新: 2026年4月



# 問題1

---

- 「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)」に関する説明として正しいものを2つ選びましょう。
  1. 「証拠に基づく政策立案」のことであり、中央官庁、地方自治体でも広く活用されている。
  2. 「人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴」という定義が一般的である。
  3. 地域保健においても、住民の自助努力を支援しつつ、ソーシャルキャピタルを活用して住民の多様なニーズにも対応することが求められている。
  4. もともと品質管理等の業務管理における継続的な改善手法として広まったもので、現在は様々な分野で取り入れられている。

# 問題1 【解答】

---

● 「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)」に関する説明として正しいものを2つ選びましょう。

1. 「証拠に基づく政策立案」のことであり、中央官庁、地方自治体でも広く活用されている。

⇒ EBPMに関する説明です。(「3-1.自治体保健師と政策形成」P13参照)

○ 2. 「人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴」という定義が一般的である。

⇒ ソーシャルキャピタルに関する説明です。(「3-1.自治体保健師と政策形成」P11参照)

○ 3. 地域保健においても、住民の自助努力を支援しつつ、ソーシャルキャピタルを活用して住民の多様なニーズにも対応することが求められている。

⇒ ソーシャルキャピタルに関する説明です。(「3-1.自治体保健師と政策形成」P11参照)

4. もともと品質管理等の業務管理における継続的な改善手法として広まったもので、現在は様々な分野で取り入れられている。

⇒ PDCAサイクルに関する説明です。(「3-1.自治体保健師と政策形成」P14参照)

## 問題2

---

- 「データ利活用」に関する説明として正しいものを1つ選びましょう。
  1. EBPMの推進において、エビデンスの収集は重要なので、データ利活用に時間をかければかけるほど良い。
  2. データ利活用は、政策形成や課題解決のための「目的」であり「手段」ではない。
  3. 各種データの利活用を推進する上では、「生活習慣→リスク因子→疾患」などのような相互関係(原因～結果関係)を踏まえて整理することが有効である。

## 問題2 【解答】

---

- 「データ利活用」に関する説明として正しいものを1つ選びましょう。

1. EBPMの推進において、エビデンスの収集は重要なので、データ利活用に時間をかければかけるほど良い。

⇒ データ利活用は「手段」であり「目的」ではないので、オープンデータ等の活用により労力や時間を削減し、取組を実施するための時間を確保することが重要です。（「3-2.EBPM①」P10参照）

2. データ利活用は、政策形成や課題解決のための「目的」であり「手段」ではない。

⇒ データ利活用は「手段」であり「目的」ではありません。（「3-2.EBPM①」P10参照）

○ 3. 各種データの利活用を推進する上では、「生活習慣→リスク因子→疾患」などのような相互関係（原因～結果関係）を踏まえて整理することが有効である。

⇒ データ利活用に関する説明として正しいです。（「3-2.EBPM①」P12-15参照）

## 問題3

---

- ロジックモデルの構成要素として「アウトプット」と「アウトカム」があります。  
「アウトプット」と「アウトカム」に関する以下の記載のうち、正しいものを1つ選びましょう。
1. アウトカムは主に「(自治体等の政策実施主体が)誰に何をどれだけ実施したか」という「実施者視点」の指標であり、アウトプットは「(その結果、)受益する誰がどう変わったか」という「受益者視点」の指標である。
  2. アウトプットは主に「(自治体等の政策実施主体が)誰に何をどれだけ実施したか」という「実施者視点」の指標であり、アウトカムは「(その結果、)受益する誰がどう変わったか」という「受益者視点」の指標である。
  3. 自治体においてEBPMを推進する際には、「アウトプット」のみ把握すれば良く、「アウトカム」まで把握する必要はない。

## 問題3 【解答】

---

- ロジックモデルの構成要素として「アウトプット」と「アウトカム」があります。  
「アウトプット」と「アウトカム」に関する以下の記載のうち、正しいものを1つ選びましょう。

1. アウトカムは主に「(自治体等の政策実施主体が)誰に何をどれだけ実施したか」という「実施者視点」の指標であり、アウトプットは「(その結果、)受益する誰がどう変わったか」という「受益者視点」の指標である。

⇒ アウトカムとアウトプットが逆になっています。(「3-3.EBPM②」P8参照)

- 2. アウトプットは主に「(自治体等の政策実施主体が)誰に何をどれだけ実施したか」という「実施者視点」の指標であり、アウトカムは「(その結果、)受益する誰がどう変わったか」という「受益者視点」の指標である。

⇒ こちらが正解です。(「3-3.EBPM②」P8参照)

3. 自治体においてEBPMを推進する際には、「アウトプット」のみ把握すれば良く、「アウトカム」まで把握する必要はない。

⇒ アウトプット評価に留まることなく、アウトカム評価も行うことが重要です。(「3-3.EBPM②」P8参照)

## 問題4

---

- 地域には様々な問題が存在しているため、「補完性原理」に基づき、各自治体が介入すべき問題を検討することが重要です。「補完性原理」に基づく行動として、正しいものを1つ選びましょう。
1. 地域の諸問題については、個人や地域コミュニティで実践・解決できるものか否かに関わらず、全て自治体が介入する。
  2. 個人や地域コミュニティで実践・解決できる問題については、まずは自助に任せ、対応できないものを地域や自治体が補完していく。
  3. 地域の諸問題について、まずは国が介入し、国が対応できないものを都道府県が補完、都道府県が対応できないものを市町村が補完、市町村が対応できないものを地域や個人が補完していく。

## 問題4 【解答】

---

- 地域には様々な問題が存在しているため、「補完性原理」に基づき、各自治体が介入すべき問題を検討することが重要です。「補完性原理」に基づく行動として、正しいものを1つ選びましょう。
  
- 1. 地域の諸問題については、個人や地域コミュニティで実践・解決できるものか否かに関わらず、全て自治体が介入する。  
⇒ 個人や地域コミュニティで実践・解決できるものは、自助に任せ、後押しします。(「3-4.政策立案」P17参照)
- 2. 個人や地域コミュニティで実践・解決できる問題については、まずは自助に任せ、対応できないものを地域や自治体が補完していく。  
⇒ 補完性原理に関する説明として正しいです。(「3-4.政策立案」P17参照)
- 3. 地域の諸問題について、まずは国が介入し、国が対応できないものを都道府県が補完、都道府県が対応できないものを市町村が補完、市町村が対応できないものを地域や個人が補完していく。  
⇒ 補完の順序が逆です。まずは個人・家族が実践し、対応できないものは地域コミュニティで実践、それでも対応できないものについて、市町村、都道府県、国の順に補完していきます。(「3-4.政策立案」P17参照)

## 問題5

---

- 保健活動における評価の観点として、一般的に「ストラクチャー(構造)」「プロセス(過程)」「アウトプット(事業実施量)」「アウトカム(結果)」が用いられます。  
評価の観点とその説明の組み合わせとして正しいものを2つ選びましょう。

1. ストラクチャー(構造) ————— その結果どうなったか
2. プロセス(過程) ————— どのようにやったか
3. アウトプット(事業実施量) ————— どれだけやったか
4. アウトカム(結果) ————— 誰が、どういう体制でやったか

## 問題5 【解答】

---

- 保健活動における評価の観点として、一般的に「ストラクチャー(構造)」「プロセス(過程)」「アウトプット(事業実施量)」「アウトカム(結果)」が用いられます。  
評価の観点とその説明の組み合わせとして正しいものを2つ選びましょう。

1. ストラクチャー(構造) ————— その結果どうなったか  
⇒ 「アウトカム(結果)」の説明です。(「3-5.政策の実施・評価・見直し」 P13参照)
- 2. プロセス(過程) ————— どのようにやったか  
⇒ 「プロセス(過程)」の説明として正しいです。(「3-5.政策の実施・評価・見直し」 P13参照)
- 3. アウトプット(事業実施量) ————— どれだけやったか  
⇒ 「アウトプット(事業実施量)」の説明として正しいです。(「3-5.政策の実施・評価・見直し」 P13参照)
4. アウトカム(結果) ————— 誰が、どういう体制でやったか  
⇒ 「ストラクチャー(構造)」の説明です。(「3-5.政策の実施・評価・見直し」 P13参照)

## 問題6

---

- 外部委託は、単なる人材のリソース確保だけにとどまらず、住民ニーズに対して内部では技術的に実施困難な場合、外部からの評価や知見を必要とする場合など、多様な活用が期待できます。外部委託の基本的な考え方として、誤っているものを1つ選びましょう。
1. 地域において多様な主体が公共のサービスを提供・継続していくための重要な手法のひとつとして位置付けられる。
  2. 公共部門の生産性向上を実現するとともに、真に行政として対応しなければならない政策・課題等に重点的に対応した、簡素で効率的な行政を実現することが期待できる。
  3. 基本的構造として、委託規模・内容にかかわらず行政責任は委託事業者が保持する。
  4. 法令上の規定および裁量権の性質等に伴い、外部委託が適さない場合に留意する。

## 問題6 【解答】

- 外部委託は、単なる人材のリソース確保だけにとどまらず、住民ニーズに対して内部では技術的に実施困難な場合、外部からの評価や知見を必要とする場合など、多様な活用が期待できます。外部委託の基本的な考え方として、誤っているものを1つ選びましょう。
1. 地域において多様な主体が公共のサービスを提供・継続していくための重要な手法のひとつとして位置付けられる。
  2. 公共部門の生産性向上を実現するとともに、真に行政として対応しなければならない政策・課題等に重点的に対応した、簡素で効率的な行政を実現することが期待できる。
  - × 3. 基本的構造として、委託規模・内容にかかわらず行政責任は委託事業者が保持する。
    - ⇒ 委託規模・内容にかかわらず行政責任は自治体が保持します。  
(「3-6.保健事業の外部委託に係るマネジメントについて」P4参照)
  4. 法令上の規定および裁量権の性質等に伴い、外部委託が適さない場合に留意する。

### 3. 政策策定と評価

**確認テストはここまでです**

